

《 卒業生は今 》

－ 漁業に就職して感じたこと －

漁業高等学園では、昭和45年の設立以来、昨年度までの卒業生は915名に達し、様々な漁業で活躍しています。そこで、卒業生が、今、どんな漁業に携わっているのか、就業してどんな感想を持ったかなど、紹介します。

No.45 Fくん (平成30年3月卒・航海専攻・現20歳) 遠洋かつお一本釣り漁船

Q. 仕事の内容は？

- * 甲板作業では、魚越し（冷凍魚の移動）、しにもん（餌イワシの管理）、カバー（オーニング）の張り、餌イワシが入っている魚艙の電気管理、ペンキ塗りなどを行っている。
- * 操業中は、双眼鏡で魚群探索、魚群がいる時は一本釣りをする。
- * 掃除（ブリッジ、サロン、トイレ）を当番制でしている。

Q. 大変なことは？

- * 仕事を覚えられなくてなかなかできない。やることは同じでも、次の作業のことを気付かず、すぐ動けない。
- * ロープのしぼり方を教えてもらってもすぐに覚えられない。
- * 釣り方がまだ覚えられない。バケ（疑似餌）を飲まれることが多い。ビンナガの時は揚がらない。

Q. 良いこと、楽しいことは？

- * カツオが釣れたとき。
- * 魚を食べられること。

Q. 学園在学中の思い出は？

- * 乗船実習が船酔いで大変だった。
- * 他の生徒に影響され、高校のときよりも勉強をした。

Q. 学園で学んだ（身に付けた）ことで、現場で役立っていることは？

- * 作業している時にどう動けばいいのかを学んだ。例えば、皆が作業している時に次のことを考えて動く。船員の作業を見ているときも近くで見る。
- * 集団生活に少しは慣れていた。船に乗ってもホームシックにはならない。

☆. 在校生へのアドバイス

- * 自分から行動できる人が望まれる。
- * 力を付けておくこと。

(平成30年6月25日)